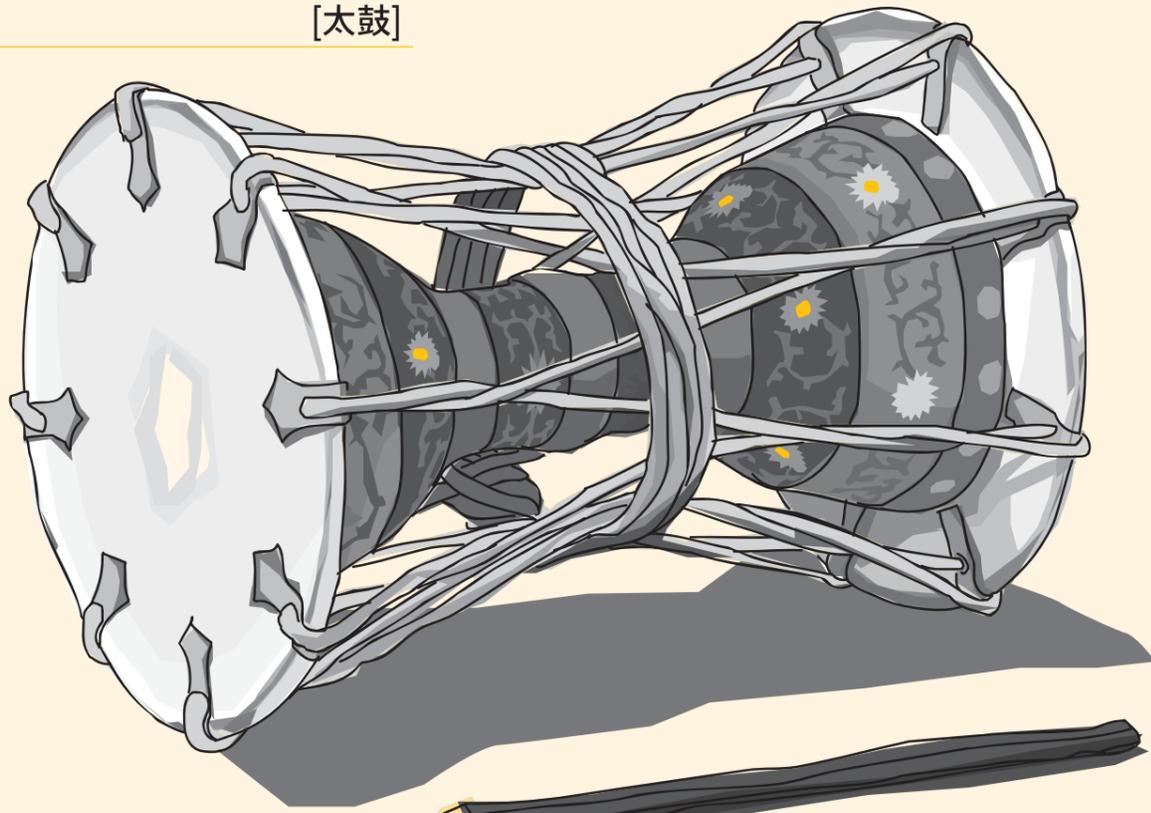


# まなこ

企画・発行 武蔵野市企画政策室市民活動センター男女共同参画担当

想いは声に出してみましょう。  
まなこはそんな声を伝えていきたい。楽器の音が人の心に届くように、今年の表紙は楽器です。

[太鼓]



## 介護は、支え合って...

池見美貴子さん 薛 静也さん 明珍美紀さん (まなこポスト)

この人に聞きたい!!『介護する家族のためのサポート』

日本社会事業大学教授 高橋流里子さん

男女平等お国事情『母の最期を支えた8人きょうだい』

パーサン・スレーンさん

知っていますか? 民生児童委員

飯田 香さん

レポーター取材体験記 菊地一郎さん

きらきらボランティア『東京消防庁災害時支援ボランティア』

中村茂美さん

49  
2003

まなこ 2003. NO. 49

男女平等むさしの発・あなたの声でつくる情報誌「まなこ」第49号  
企画・発行 武蔵野市企画政策室市民活動センター男女共同参画担当

## レポーター会議報告



10月19日土曜日午後1時~3時。吉祥寺駅に近い消費者ルーム(商工会館3F)で

### 48号「子育ての喜び、分かち合っていますか？」について

- いろいろな考えや職業を持つ人を紹介するのは、新鮮でおもしろい。  
50代女性
- 病児保育室は、仕事を持つ母親だけでなく、もっと多くの人に知ってもらいたい。  
40代女性
- 内容が、マンネリ化している。取材記事を編集部の視点から分析してみるなど、もう一歩踏み込んだ工夫が必要では。  
70代女性
- きれいに流れてしまう傾向はあるが、取材される人達の立場を考えれば仕方がない面もあると思う。  
40代女性
- 障害児を育てている人達はとても明るい。その明るさが伝わるような紙面作りを望む。  
70代女性

### 49号のテーマ「高齢者介護における分担」について

- 自営業の実家では、家族全員が協力して13年間、祖父を介護した。少子化の進む中、自分達が介護を受ける年代になったとき、支えてもらうことができるか不安に思う。  
30代女性
- 介護は、家督を継ぐ長男の嫁の仕事と言われ、夫の父親が亡くなったとき、次女の嫁である私には何も手伝わしてもらえなかった。  
40代女性
- 誰でもいつ、介護される立場になるかわからない。老いても若きも日頃から自分の問題として考えておくことが必要だ。  
70代女性
- 85歳の祖母が要介護1の認定を受け、デイサービスに通っているが、痴呆のない祖母にはサービスの内容が物足りないようだ。戦争体験を語る場を作るとか、もっときめ細かいプログラムがあればよいと思う。  
20代男性

- 母が、同居していた父方の祖母をずっと介護していた。私も高齢者の相手をするのが好きで、学生時代からさまざまなボランティア活動をしている。  
20代女性
- 義母を夫や義兄、義姉で交代で介護している。みなが疲れてしまうと、ショートステイを利用しているが、本当に高齢者の立場や気持ちを尊重するものであるか疑問に思うときも。もっと行き届いた保険制度や充実した内容のサービスが望まれる。  
40代女性
- 離れて暮らす実家の両親のことが気がかり。子ども達が自立して、介護のために安心して家を空けられるようになるまで、元気でいてほしい。  
40代女性
- 親の年金を子ども達で取り合ったり、痴呆のために疑心暗鬼になった高齢者が自分の貯金に固執したり、介護の間では金銭を巡る問題が多いと聞く。  
70代女性/その他
- 単に面倒を見る、看てもらってではなく、命の尊厳とは、生きる喜びとは何かを常に考えることが大切だと思う。  
70代女性
- 両親と3人暮らし。要介護状態になってまで長生きする気はないと言われ、最近、命の尊厳や尊厳死について考えるようになった。  
40代女性 (構成 編集部)

子どものいない人生を選ぶことはできます。仕事を持たない生き方もあるでしょう。でも、老いだけは誰のものにも平等にやってきます。老いていく形は、人によってさまざま。望むと望まないにかかわらず、ある人は家族に囲まれて、ある人は自分一人です。たくさんの仲間とともに施設で過ごす人もいます。

人は、自分のものさしで他人をはかるうとしがちです。でも、自分と違う老い方、自分の選ばなかった生き方にも、ちょっと目を向けてみませんか。お互いの生き方を認め合うこと。支え合えば、そこから始まるはず。支えて、支えられて、誰もが最期のときまで誇りを持って、自分らしく輝いていたら。そんな願いを込めて、49号を編集しました。

高齢者介護にかんする詳しい情報は、「い・き・い・き」に掲載されています。



高齢者福祉課・介護保険課で配布

☆3月発行の次号は、いよいよ、50号です。「まなこ」が歩んできた10年間を、歴代4人の編集長とともに振り返ります。

また、男女がともに手を取り合って、新しい時代を生きていくためにはどんなことが大切なのか。均等法とともに育ってきた若い世代による誌上座談会も企画しています。お楽しみに!!

## staff

- レポーター 秋沢和宏・池見美貴子  
糸井 守・植田裕子  
大口 浩美・長内レエ  
尾花 雅子・梶井美香  
菊地 一郎・岸 文子  
栗原 恵子・栗原照子  
小林 庸子・小日向三恵子  
柴 伸子・藤岡みゆき  
水上 紘子・宮本 涼子  
渡邊 大輔
- 取材・編集 森 治美(編集長)  
新井利恵子・加藤和子  
藤井美里・星 詩子  
日比康人
- デザイン 横河グラフィックアーツ  
印刷 株式会社

☆ あけましておめでとーございます。新しい年が、少しでも明るく楽しく感じられるように、「まなこ」も少しだけバージョンアップ。より多彩な市民の方々に、ライターとして参加してもらいました。お楽しみいただけましたか? 老若男女たくさんの方に読んでもらえるような楽しく、読みやすい紙面作りを目指して、今年も編集作業に頑張ります。どうぞ、「まなこ」に暖かい眼差しを!! (森 治美)

☆ 自分達の老後なんてまだ考えられない。新しい年が、少しでも明るく楽しく感じられるように、「まなこ」も少しだけバージョンアップ。より多彩な市民の方々に、ライターとして参加してもらいました。お楽しみいただけましたか? 老若男女たくさんの方に読んでもらえるような楽しく、読みやすい紙面作りを目指して、今年も編集作業に頑張ります。どうぞ、「まなこ」に暖かい眼差しを!! (星 詩子)

☆ 少子高齢化が進む中、歳を重ねたとき私はどんなふうにして過ごしているのだろう。大切なことは、一日一日を楽しく元気に充実させて過ごすこと。80歳になったときの自分の姿を、楽しみに考えられる世の中になつてほしいと願う。 (加藤和子)

☆ 自分達の老後なんてまだ考えられない。実は今の社会状況がそのまま将来にシフトさせてイメージするのがこわいのかも? 長生きするほど楽しく生きられる、そんな時代を子ども達に贈りたい。 (藤井美里)

☆ 誰にも迷惑はかけたくない。アンケートにもそんな多くの声が寄せられたけれど、要介護状況になるのは自然なこと。今回出会うた心優しい「最後の同伴者役」の存在に勇気付けられる。 (新井利恵子)

## 編集後記

☆ まだ若いと思っていた両親も、四捨五入したら70代! いよいよ介護が他人事ではなくなってきました。でも、私の介護って、誰がしてくるんだろう? これまた真剣に考えねば。うーん... (新井利恵子)

☆ 誰にも迷惑はかけたくない。アンケートにもそんな多くの声が寄せられたけれど、要介護状況になるのは自然なこと。今回出会うた心優しい「最後の同伴者役」の存在に勇気付けられる。 (加藤和子)

☆ 自分達の老後なんてまだ考えられない。実は今の社会状況がそのまま将来にシフトさせてイメージするのがこわいのかも? 長生きするほど楽しく生きられる、そんな時代を子ども達に贈りたい。 (藤井美里)



この人について  
聞きたい!!



「大切なのは、まずサポートすることです」と高橋先生。

# 「介護する家族のためのサポート」

日本社会事業大学教授  
高橋 流里子さん

介護保険法が施行されて約2年。見直しが求められる中で、介護する家族を支えようという動きも活発になってきている。  
日本社会事業大学社会学部教授の高橋流里子さんの研究室を訪問した。高橋さんは、研究の一環として実践・ボランティア活動（介護家族などへの相談・支援活動）も行っている。

Q 最近「介護する家族のケア」という言葉をよく聞きますが？

平均世帯人員が3人をはるかに割っている現在、介護を家族だけで担うことはできません。都市部では老々介護が当たり前で、介護する余力などない人が、押し付けられてやむを得ず介護している状態です。社会もようやくこのような状況に気付き、介護する側の声に耳を傾け始めたのではないのでしょうか。もちろん、介護から生じる精神的負担で苦しんでいる人達に、カウンセリングなどで心理的なケアをすることが必要なこともありま。しかし、もっと大切なことは、介護者が一人で抱え込んでうつ状態になったり、介護のことしか考えられないといった状態に陥らないように、事前の予防策も含めて社会的サポート（支援）をすることです。

Q そのサポートとは、どんなものですか？  
まず、大切なことは、いざ介護者になったときに何から始めたらいいのか、どこに相談に行ったらよいのかという知識を広めることです。事前の知識が十分ならば、親が倒れたら自分が介護を担わなければならないという切迫した気持ちもやわらぎ、安心して介護に臨めるはず。しかし、事前に相談できる場所はほとんどなく、行政のサービスも本当に困ってからの期待できません。いつでも安心して駆け込んで行くことのできるサポートの場をたくさん、作る必要がありますね。



東京都清瀬市竹丘3-1-30 URL <http://www.jcsw.ac.jp>

日本社会事業大学のキャンパス

Q 質の高いサポート体制とは？  
痴呆の人は、環境が変わると不安定になることがあります。施設の側が、そのことを事前にきちんと説明しておくこと、介護者の不安を取り除かれ、要介護者も安定してくる場合があります。このように、施設の側も常に、介護者のサポートを心がけることが大切です。また、要介護者を施設に入所させた後の、残された家族のサポートも大切な仕事です。専門の施設ならば、家族がいつでも施設に来て自由に触れ合える状況を作り、家族の関係を絶たないように努めていかなければなりません。

Q 介護家族のサポートは、ボランティアでも担うことはできませんか？  
支援を受けた経験のある人が、別の介護者を支援することはできますが、介護者に寄り添えるように訓練されることが必要ですね。カナダでは、行政の保健福祉サービス機関で「ケアギバーサポートセンター」（介護者サポートセンター）を設け、ソーシャルワーカーが中心になってボランティアを育てています。ボランティアが、介護家庭を訪問して介護者が外出できるように支援する例などがあります。  
日本でも、社会福祉の領域を中心にして、専門職が介護者やボランティアと一緒にやっていくという意識を育てていくべきですね。（取材 森 治美）



## 最期まで輝いて生きていたい

明珍美紀 境



知り合いの女性ジャーナリストがこの秋、肝臓がんの告知を受けた。病状は予想以上に進んでいた。だが、自分には書くべきことがたくさんある。元気でいる時を少しでも長く伸ばしたい。こんな思いで彼女は緩和ケア病棟、すなわちホスピスを選んだ。

私が初めてホスピスを訪れたのは6年前、武蔵野支局に赴任して間もないころだ。武蔵野市に住む女優、草村礼子さんが支局に寄ってくれた折に、「この間、ホスピスにお見舞いに行ってきたの」と中の様子を話したのがきっかけ。それが小金井市にある桜町病院聖ヨハネホスピスだった。

行ってみて、驚いた。昼間は明るいラウンジが、夜はしゃれたバーに早がわり。ボランティアが交代でカウンセラーの中に入り、その中には神父もいた。患者の苦悩に耳を傾けながらマティニーやブルームーンなどのカクテルをつくる。「チャプレンはシェーカーを振る」として記事にした。患者と家族が、濃密な時を過ごす空間。それをひげの山崎章郎医師らスタッフや多くのボランティアが支えていた。

「年老いても、病気で寝たきりになっても、最期まで輝いて生きていたい」。自分の身に置き換えて思うたびに、終末医療の大切さをかみしめる。  
（毎日新聞記者 社会部・武蔵野支局長 などを経て現在、東京本社生活家庭部）

\* 折りの場所が教会以外の学校や病院などにあるとき、そこで働く聖職者のことを指す。

## 分かり合うために

池見美貴子 25歳 吉祥寺北町



「今は手話も勉強中です」

「お腹が空くとご飯が食へなくなるのと同じで、イベントがあれば参加したくなっちゃう」と、きらきら目を輝かせながら話す池見さん。イベントとはボランティアのことだ。亜細亜大生時代に友人に誘われ、何気なく参加したボランティアグループ。気づけば30人程のメンバーを引っ張る部長になっていた。大学祭チャリティバザーで百万円以上を市内の施設に寄付したこともある。

## 誰もが迎える老後のとき、こんな人達が支えてくれたら・・・。

### ここちよい暮らしのための家として

薛 静也 57歳

特別養護老人ホーム「親の家」の施設長である薛さんは、小学生の頃から介護とかわっている。高校三年生まで家には、祖母がいて介護中心に生活は回っていた。「家で友人と遊べない、何か手伝わなくてはいけないなどの考えが自然に身につきました。抵抗感はありませんでした。これまで、特別養護老人ホーム「まわりも園」での仕事を経て「ゆとりえ」の立ち上げに尽力した。

「ある時、ペースト状の物しか食べられない」と思われていた人が、握り寿司をペロりと食べるのを見て驚いたことがあります。同時に先人観を持たず、主体性を引き出す介護の大切さを感じました。「親の家」は入所者とショートステイ合わせて48名が4つのユニットに分かれ、それぞれに日中3名程度のスタッフがつかう。

課題は地域とのつながりをより深めていくことだ。高齢者や子ども達もつと気楽に集まれるように、昨年の4月から地域開放のスタートを始めた。「家族だけで手に負えないことは多い。介護の社会化は当然のこと。スタッフも家族と一緒に最後の同伴者役を務めたい」



「離れていても通いやすい家族が続けてほしい」

\* 親の家 武蔵野市八幡町3-1-18 TEL 0422(55)0507 FAX 0422(55)0578 (文 加藤和子)

# あなたは、誰を支えたいですか？あなたは、誰に支えてもらいたいですか？

アンケートにボランティア協力いただける方を募集中。  
詳しくは企画政策室市民活動センターまで

## 49号アンケート 女33名/男9名 計42名

### 介護保険の内容について知っていますか？

内容まで知っている 23名 聞いたことはある 16名 わからない 3名

### 家族が介護を必要になったとき、あなたはどうしますか？

#### 同居の場合

☆女性は結婚すると相手方の両親を介護するイメージが強い。 女25歳 吉祥寺北町  
 ☆いろいろなサポートを受けながら出来る限り家で介護する。 女60代 西久保/他7名  
 ☆自分一人でできることはやり、無理が生じたら病院や施設を探す。 女40歳 国立市/他3名  
 ☆心を込めて尽くし、本人が楽しく過ごせる介護をしてあげたい。 女40代 緑町  
 ★介護サービスを紹介してもらい、協力して対処したい。 男27歳 吉祥寺北町  
 ★介護生活に支障のないよう、自宅の若干のバリアフリー化の改造も必要。 男72歳 吉祥寺東町

☆自分や同居の家族に無理のない範囲で手伝う。 女41歳 市原市  
 ☆曜日を決めて通って介護をしている。 女56歳 八幡町  
 ☆経済的援助をする。 女71歳 中町  
 ★兄弟で話し合うが、近くに転居させたいと考えている。 男50代 吉祥寺北町  
 ★仕事が休みの週末などに帰省することになるのかなと漠然と考えている。 男28歳 関前

#### 同居、別居にかかわらず

☆家族以外の公的サービスか営利団体のサービスを利用したい。 女39歳 三鷹市  
 ☆本人の希望を聞く。家族会議を開いて話し合う。家族親族の協力は余力の十分残る程度にして、あとは社会資源を大いに活用する。 女60代 八王子市

### 介護で困っていることは何ですか？

☆時間がほしい。 女45歳 吉祥寺本町  
 ☆痴呆の人には、どこかハレモノにさわるように接しなければならず、ストレスがたまる。 女40代 緑町  
 ☆入浴。介護する人、される人に配慮した設備のある小規模な浴場が地域にあればよい。 女60代 八王子市  
 ☆当人のプライドを傷つけずに、家の中の臭い対策ができないか苦慮している。 女60代 西久保  
 ☆通って介護しているので、疲れ果ててきた。 女56歳 八幡町  
 ☆夕方の散歩のとき、30分でいいから母親に付き添ってくれる人がいると助かる。 女80歳 八幡町  
 ★介護施設は、被介護者本人の年金ですべてのサービスコストが収まるような配慮をするべきと考える。 男72歳 吉祥寺東町  
 ★要介護5の人への快適な車椅子。食堂も含む街のバリアフリー化。 男50代 吉祥寺南町

### アンケートから 声

在宅介護が限界に来た時の受け入れ施設の充実を望む。またヘルパーには介護報酬が支払われ、同じ仕事をしている家族にはそれが認められないのはおかしい。嫁であれ、息子・娘であれ、孫であれ、ある程度以上の介護に従事した場合には介護される本人も、国もそれを仕事と認め、介護報酬を認めるべきだと思う。現行の遺産の寄与分(これも嫁には認められない)とか生前贈与といった形の認定ではなく、毎日、毎月の仕事に対する報酬として認定する制度が必要だと思う。 女60代 八王子市

### 家族の誰かひとりに負担が偏ることなく、また自分の仕事や生活を大きく変えることなく、介護に携わるために必要なことは何だと思えますか？

#### 家庭では

☆嫁だから女性だから介護に携わるのは当然という意識は持たない。 女39歳 吉祥寺北町  
 ☆日頃の家族間の絆がポイント。 女40代 米沢市  
 ☆いろいろな方に来ていただき明るく見守り、介護する人される人が孤立しないようにする。 女60代 西久保  
 ☆経済の余裕だと思う。誰かの手による安心や時間を買うこともできるから。 女60代 吉祥寺北町  
 ☆家族の協力といっても限界がある。他人を家庭に受け入れることができる習慣や心を持っていることが必要。 女60代 八王子市  
 ★役割を決めて家族全員で介護する。 男25歳 中野区/他15名  
 ★男も日常家庭内の作業に慣れておくことが必要。 男70代 吉祥寺北町

## 男女平等

## お国事情

### 母の最期を支えた6人きょうだい

バーサン・スレーン 30代

モンゴルには日本のような高齢者介護施設がありません。バーサン・スレーンさんの故郷、モンゴルの首都ウランバートルという都会でもそうです。平均寿命65〜68才の国で高齢者の介護は家族が自宅で看ています。昨年9月22日、バーサンさんのお母さんは故郷モンゴルで亡くなりました。バーサンさんは当時東京農工大留学生。母の病気がわかった3月は、まさに博士号取得の最終段階。休学、帰国を家族に打ち明けたところ、子ども思いのやさしいお母さんに反対されました。「まず博士号を。私の世話はその後でいいのよ」



武蔵野市女性団体「むさしのスカーレット」所属

6人きょうだいの長女であるバーサンさん、自分の親の世話を子どもがするのがあたりまえと考えていたのですが、ふだんの介護は故郷の5人のきょうだいの仕事がやりくりしながら交代で。「モンゴルの親の世話を子どもがするのがあたりまえと考えていたのですが、ふだんの介護は故郷の5人のきょうだいの仕事がやりくりしながら交代で。」



#### 地域では

☆近所の理解や、日頃からの声かけが大事。 女25歳 吉祥寺北町/他8名  
 ☆デイケアセンターなどのサービスの充実と利用しやすい料金設定。 女40歳 八王子市  
 ☆老人対象のサークルが多くなればいい。 女45歳 吉祥寺本町  
 ☆サービスの地域格差をなくす。地方にはお弁当の配食サービスもない。 女?歳 八幡町  
 ☆介護者が安らげる場所、時間、情報交換できる集まりがあるとよい。 女50歳 緑町  
 ★在宅介護についての情報や相談にのってもらい情報ネットワーク。 男50代 吉祥寺北町

#### 社会制度では

☆低料金でより多くの時間のケアが受けられるように。また、介護用品を低料金で貸与する制度があるとよい。 女39歳 吉祥寺北町  
 ☆手続き方法がわからなかったり、自分で手続きすることができないためにサービスを受けられない高齢者などへのサポート。 女39歳 関前  
 ☆介護のためのワークシェアリングが推進される企業作り。 女40代 緑町  
 ☆質の良いヘルパーやサポーターの養成。 女50歳 中町  
 ☆介護保険の短所を具体的に洗い出し、改善する。 女60代 吉祥寺北町/他8名  
 ★介護休暇の認定や、介護費用の補助。 男45歳 境/他6名  
 ★制度を補充する意味で、地域で介護のボランティア組織を作り、その支援を国がする。 男28歳 関前  
 ★介護に携わる人の経済的身分保障。 男70代 吉祥寺北町

### 自分が介護される立場になったとき、どうしてほしいですか？また、どのような老後の生活を望みますか？

☆健康に暮らし続けたい。/PPK(ピンピンコロリ)の最期にしたい。 女40代 緑町/他多数  
 ☆できる限りの悠々自適を貫きたい。 女45歳 吉祥寺本町  
 ☆自分のことが自分でできなくなったら、死を選べる権利がほしい。 女39歳 三鷹市  
 ☆介護してくれる人が負担にならないように方法は任せる。 女41歳 市原市  
 ☆親の介護で精一杯。自分の将来など考える余裕がない。 女56歳/80歳 八幡町  
 ☆老いと病気で上手に付き合いながら、家族と過ごしたい。 女51歳 吉祥寺北町  
 ☆家族に負担をかけたくないので、質の良い施設でケアしてもらうことを望む。 女40歳 八王子市/男70代 吉祥寺北町  
 ☆介護される立場になったとき、～してほしいと言えるような社会であってほしい。 女54歳 西久保  
 ★健康・経済面においてできるだけ不安をなくし誰の世話にもならず、最期まで現在の仕事を続け、常に精神的に自立していきたい。 男50代 吉祥寺北町  
 ★家族に介護してもらいたくない。負担をかけさせたくないから。 男25歳 中野区  
 ★施設に入居する場合は、妻と一緒に入居できる施設を選びたい。 男72歳 吉祥寺東町

### アンケートから 声

6人の弟妹のうち時間を割くことのできる3人が、週に1日、隔日ごとにスキップ介護を担当して、病院の介護棟にいる母の精神的な孤独感を癒すことに努めている。母からの返事はないけれども「気持ちがいいよ」という表情を頼りに、掌、二の腕、更に腕と強く弱く握るようにさするように、両手腕、両足、更に肩先から肩甲骨の辺りまで、私共の掌で45分程マッサージを行うのである。母の平癒は無理としても、母の体力が寿命に叶うまでは続けようと声を掛け合っている。 男72歳 吉祥寺東町

# 民生児童委員

地域の「点」を「線」にしたい

飯田 香さん 72歳 西久保

武蔵野市第2地区民生児童委員協議会会長



「夫の闘病時の体験をアドバースに生かしています」

家族や自分が突然のけがや病気、リハビリ。このまま介護に結びつくのだろうか、どこに相談すれば、誰か手伝ってくれる人は…

漠然と不安がる前に知っておきたい、民生児童委員制度。地域住民の日常生活に必要な支援について、気軽に相談にのってくれる心強い存在だ。連絡先は「武蔵野市わたしの便利帳」で公開されている。

高齢化で、地域に根を下ろした介護支援が模索される中、市内西久保で30年連続して委員を務める飯田香さんを、レポーターの菊地 一郎さんと訪ねた。

高齢者に対しては、どんな支援をしていくのですか？

介護保険制度の導入以来、制度や申請方法の説明、支援施設の内容を知らせる例が目立ちます。制度は知っていても、手続きがわからない人、面倒に感じる人が多いので、役所の窓口に行きにくいこともあります。平成12年、都の社会福祉基礎調査(65歳以上対象)では、該当の独居世帯が担当区域に百件近くありました。元気な人もいれば、同じ敷地に子世帯がいる場合もあるので、独り暮らしの高齢者がすぐに支援を必要とする訳ではありません。

が、一方で「カギがかり、食事を届けられない」と配食ボランティアからの連絡で駆けつける緊急事態も。

独居高齢者は一人で困難を抱え込んでしまいがちなので、見守り、声かけなど、適切なニーズを見出し、パイプ役になって要望を行政に届けます。

具体的に、見守りとは？

プライバシー保持のため、独居世帯名簿など無いんです。そのぶん日頃からアンテナをはり、最近見かけないな、という人がいたら、

民生児童委員とは？

厚生労働大臣の委嘱を受けた、非常勤の地方公務員。昭和23年施行の民生委員法による。3年を任期に、住所地ごとに担当を持ち、生活にかかわる相談を受け、必要に応じて関連機関に連絡を図る。対象は一般世帯をはじめ、乳幼児・児童から高齢者、障害者、低所得者等、幅広い。現在、武蔵野市には百名弱の委員が活動中で、うち7割強が女性。定期研修会や自主的な勉強会を持ち、行政と連携すると同時に、個人情報を守り守る守秘義務が課せられる。

特に気配りをします。電話、葉書も送ります。ご自分から絵手紙で近況を知らせてくださったり。いつの間にか心が通い合っているんですね。そんな地道な活動に共感してくれる人に、いっしょに見守る協力をお願いし、地域に孤獨な「点」を作らず、「点」から「線」につなげたいという気持ちで活動しています。

今後はどんな活動を？

現行の制度に頼り切りではなく、制度を賢く使いこなして暮らさし、かつ意見も言うことを、地域の皆で課題にしていきたいですね。意見は意識の向上へとつながり、やがて福祉のエキスパートが育つでしょう。

テンミリオンハウスのように、地域が取り組み、行政がきちんと後押しする好例が増えつつあります。現行の民生児童委員制度では、子弟が市内公立校に在学中は原則、就任できないという制約がありますが、若い世代も男性も、地域福祉を身近に感じて積極的に参加してくれる日が来ることに、期待しています。(取材 藤井美里)

## ●● レポーター取材体験記 ●●



飯田さんは「福祉は人だ」と言われた。法律もたびたび改正され、施設も着々と造られたが、福祉にかかわる人の十分な理解・認識がないと、福祉はたちゆかないということを改めて感じた。

レポーター・菊地 一郎

# きらきら ボランティア

## 身近なものでできる救急を 東京消防庁災害時支援ボランティア

中村茂美さん 58歳 吉祥寺南町

「本当は役に立つことがない方がいいんだけどね」と笑う中村さんは、東京消防庁災害時支援ボランティアのコーディネーターとして活動している。

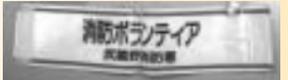
東京消防庁災害時支援ボランティアとは救命講習などの専門知識を持った東京消防庁のボランティアであり、班長としてのリーダー、そのリーダーをまとめるコーディネーターと知識や技術によって分かれている。その活動は幅広く、救急活動はもちろん救急フェアなどのPR活動も行っている。

きっかけは自転車事故との遭遇。ただ遠巻きに見ているだけの人達を見て「救急車が来るまでの5〜6分の間に正しい知識があれば、もっと役に立てることがあるのでは」と思った矢先、当時発足した災害時支援ボランティアを知り、早速応募した。平成7年、阪神大震災の年のことである。

中村さんのバッグの中には、いつでも防災グッズが入っている。その中でもリーダー以上が持つ黄色い腕章は武蔵野消防署独自のものだ。

「いざというとき、登録証だけでは目立たないでしょう。有資格者だから安心して頼めることもあるじゃないですか」

実際、吉祥寺で目の前のお年寄りが意識を失ったところに出会ったことが



一般の電話はつながりにくくなります。災害用伝言ダイヤル「171」を覚えておいてください。

\*東京消防庁災害時支援ボランティア

武蔵野消防署での応募資格：武蔵野市に在住の18〜65歳までの方

TEL 0422(51)0119

## 市民活動センター 男女共同参画担当では

市民活動センターから講座のお知らせがあります。会場はすべてむさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室です。応募方法など詳しくはそれぞれ市報でご確認ください。

### ライター入門講座

日時：平成15年2月17日、24日、3月3日、10日(すべて月曜日) 午前10時~12時 4回連続実習講座  
講座内容：「文章表現の技術を取得する」  
講師：西村良平氏(日本エディタースクール講師)  
定員：20名

### 男女共同参画セミナー

- 1: 講座名：「女と男、共に生きる21世紀」  
日時：平成15年1月17日(金) 午後2時~4時  
講師：佐藤和夫氏(千葉大学教育学部教授)  
定員：40名
- 2: 講座名：「DV(ドメスティック・バイオレンス)防止法ってどんな法律ですか？」  
日時：平成15年3月14日(金) 午後2時~4時  
講師：戒能民江氏(お茶の水女子大学生活科学部人間生活学科教授)  
定員：40名
- 3: 講座名：「多摩でDVを考える会の活動から~自分たちができるところから合言葉に」  
日時：平成15年3月19日(水) 午後2時~4時  
講師：多摩でDVを考える会 代表 土方聖子氏(前日野市企画部女性参画推進室長)  
定員：40名



内閣府男女共同参画局で制定した「女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク」です。ご存知ですか。

企画政策室 市民活動センター 男女共同参画担当

TEL 0422(60)1869

URL http://www.city.musashino.tokyo.jp/

## むさしのヒューマン・ネットワークセンターでは

今回のテーマ「高齢者介護における分担」に関する本を、ネットワークセンターの蔵書の中から情報部の福澤雅子さんが紹介してくれました。貸出しも行っていますのでご利用ください。

### 「みんなの介護」シリーズ2 男の介護 < 48歳サラリーマンの選択 >

竹永睦男著 樋口恵子・堀田力監修 法研

「介護の実態を直視して、介護する人、される人に真に役立つ情報と介護のノウハウを分かりやすく提供する」ことを目的としたこのシリーズ。

著者は独自のプランをつくり、「独りでがんばらない介護」を実践。男の介護は、自分自身や「生と死」を見直す学びの場だったとの、真摯な言葉に教えられます。

### あきらめないで、働きながらの介護術

グループ・アミ編・著 現代書館

女性が孤軍奮闘しての家族介護はもう限界。働きながら介護を続けるには、「利用できるサービスはすべて利用しよう」「介護は女性だけの仕事ではない。男性を巻き込もう」「手は出さず、口を出す人たちの批判は聞き流そう」など、介護する側もされる側も、充実した人生を送るための情報・工夫・生き方への意志が満載。力になります。

### オトコの介護力 介護するの男と女・介護されるの男と女

稲葉敬子編・著 木場書館

増え続ける要介護者に、介護による「家庭崩壊」といった事態も起こりうる。この危機を救うのが「男の介護力」。現状を打破しようとする探究心や論理的な行動力が介護される人の残存能力を引き出し、前向きな介護につながっていく。技術と体力が要求される「身体介護」はむしろ男性に適任という。自然体で介護する「いい男」たちの姿にホレホレ。

ヒューマンネットワークセンターの詳しい情報はホームページで閲覧できます。



武蔵野市境2-10-27 武蔵野市政センター2階  
TEL・FAX 0422(37)3410  
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp  
URL http://www.clipcraft.or.jp/m\_hnc/